マスターは十五年前の夕食を覚えているか

◎登場人物

月島 暗記（つきしま くらき）

廃ビルの地下にあるカクテルバー『Memories』のマスター。何かを忘れる
ということがない完全記憶能力の持ち主である。

日高 大和（ひだか やまと）

週刊ウェンズデーの記者。暗記とは高校の同級生。おしゃべり好き。「いつ
もの」はロングアイランドビーチ。

木下 真琴（きのした まこと）

最近、暗記が雇ったアルバイトの女の子。日高の娘と顔がそっくり。

火口 飛鳥（ひぐち あすか）

スキャンダルが多いことで有名な注目の若手ピアニスト。「いつもの」はエ
メラルドミスト。

水川 麗（みずかわ れい）

火口を騙そうとして逆に騙された結婚詐欺師。「いつもの」はアレキサンダ
ー。

金子 雫（かねこ しずく）

日高の元妻。男女間のいざこざを修復するのが得意。暗記、日高とは高校
の同級生。非常に若づくり。「いつもの」はルシアン。

土屋 重盛（つちや しげもり）

バーにあるピアノを欲しがっているサラリーマン。多額の借金がある。「い
つもの」はオーガズム。

ねこふんじやった ねこふんじやった
ねこふんづけちやったら ひっかいた
ねこひっかいた ねこひっかいた
ねこびっくりして ひっかいた

悪いねこめ つめを切れ

屋根をおりて ひげをそれ

ねこニャーゴ ニャーゴ ねこかぶり

ねこなで声で あまえてる

ねこごめんなさい ねこごめんなさい

ねこおどかしちやって ごめんなさい

ねこよっといで ねこよっといで

ねこかつぶしやるから よっといで

ねこふんじやった ねこふんじやった

ねこふんづけちやったら とんでった

ねことんじやった ねことんじやった

ねこお空へ とんじやった

青い空に かささして

ふわり ふわり 雲の上

ごろニャーゴ ニャーゴ ないている

ごろニャーゴ みんな 遠めがね

ねことんじやった ねことんじやった

ねこすつとんじやって もう見えない

ねこグッバイバイ ねこグッバイバイ

ねこあしたの朝 おりといで

第0章 演出家は十五年前の嘘を覚えているか

(客入れから演出挨拶)

2009年。

舞台は都内某所、廃ビルの地下にあるカクテルバー『Memories』。ねこふんじやったが鳴り響く中。

カウンターではマスターの月島が新しいカクテルの開発にいそしんでいる。

その隣にバイトの女の子、木下。興味深そうにその様子を見ている。カウンター席で日高が新聞を広げて読んでいる。

下手には年季の入ったグランドピアノがあり、火口はそれを弾いている。モーツアルトの曲が流れている。

上手にトイレがあり、その前で土屋がくるくるまわってトイレ待ちをしている。

テーブル席では金子と水川が楽しそうに談笑している。

そこに演出家が入ってくる。と同時に月島以外の人間が静止する。

月島 いらっしやいませ。

演出 マスターいつもの。

月島 かしこまりました。

演出 ちよっと聞いてくださいよお。この間のことなんですけどね。僕初めてバーに行きましてね、それでまあ、オリジナルカクテルから始めまして、ソルティドッグ、ダイキリ、ギブソン、ゴッドファーザー、スコープオン、グラスホッパー、ゾンビー、サムライ、~~XYZ~~と飲んで言ったんですが、そのマスターがいい人で色々サービスしてくれましたね。すっかりバーが気に入ってしまいました……。それで僕、バーを舞台にした脚本を書いてみたいなあって思っっていつきに物語を書きあげたんですよ。ちよっと楽しそうじゃありません？

1人でテンションの上がる演出。白けた目で月島はそれを見る。

不意に演出が客の存在に気がつく。

音楽が小さくなり月島は静止する。演出にスポットが当たる。

演出 いや、これは大変お見苦しいところをお見せしました。大変お待たせい

ました。本日は劇団……。

演出一通り注意事項を述べる。

演出 さて月並みの挨拶はこれ位にしまして……。みなさん、先程私が申し上げていた私がこの脚本を書いてみようと思った理由ですが……。あれ全部ウソです。すいません。みなさんもウソをついたことはあると思います。私はウソをつかない人間はいないと思っています。しかしウソをつき通すってなかなか難しいですよ？ 特にそれが何年も前についたウソとなると……。でん！ さあここで皆さんに問題です。先程のウソの話で私が4番目に飲んだカクテルは一体なんでしょう？ チツチツチツチツチツチツチ、ブー——時間切れです。おそらく覚えていた方はほとんどいらっしやらないと思います。もしこの問題を10年以上経ってから出したら答えられる方は1人もいないのではないのでしょうか？ しかしそんな些細なことまで全て記憶している人間がいるとしたら……。この問題の答え「ギブソン」とあっさり答えてくれることでしょうか。もしそんな人間がいたら、10年以上前についたウソをその人に告白したくなったりするのではないのでしょうか？ これはそんな男が経営するバーで起きた物語です。ではごゆっくりご観劇ください。

徐々に音楽が鳴りやみ、暗転。

第1章 マスターは十五年前の夕食を覚えているか

そこは開店直後のバー。

月島は酒の整理をし、木下は机を拭いている。

そこへ日高が入ってくる。

日高 いっちばーん。いやあなんでも一番というのは気持ちがいいものだな。

おい暗記、いつもの。

月島 日高、ここではマスターと呼んでほしいな。

日高 なんて高校の同級生をマスターなどと呼ばばにやなんのだ。マスターってのは日本語にすれば、主人やら達人ってことだろーが。俺はお前をそんな風には思っていない。よって俺はお前をマスターなどとは呼ばん。

鼻で笑う月島。

日高 何が可笑しい？

月島 いや、15年前の昨日も今と全く同じ会話をお前としたなと思ってな。久しぶりだな、日高。

日高 でた！ 完全記憶。俺はお前の記憶力がすごいのは高校の時から知ってるんだよ。今更見せびらかすんじゃねえよ。

月島 別に見せびらかしたわけではない。

木下 何ですかマスター。このおしゃべりくそ野郎は。

日高 誰がおしゃべりくそ野郎だ！

日高、振り向き真琴の顔を見て一瞬止まる。

木下 何ですか？

日高 梨沙？ 梨沙なのか？

木下 はい？

日高、月島の方に向きなおる。

日高 おい暗記。なんだこの失礼な小娘は？

月島 木下真琴と言ったな。最近アルバイトとして雇ったんだ。この店もようやく軌道に乗ってきて、私一人では手が回らなくなったんだ。新人なんだ。

多少の失礼は勘弁してやってくれ。真琴は思ったことをそのまま口に出してしまうタイプなんだ。

日高 ほう新人のバイトを……。 (木下の方を再び向いて) おい小娘！ 俺はお前の雇い主の高校時代の友人だ。クラスも3年間一緒だった。しかも今、俺は客としてこのバーに来ている。お前と俺の立場をよく考えろ？ お前は俺を敬わなければならぬ立場にあるんだ！

木下 (月島の耳元で) なんでこんなのと友達だったんですか？

月島 私は友達と言った覚えはない。

日高 おいつ。聞こえてんぞ！ まあいい。しっかりその小娘教育しとけよ、暗記！ (店内を見渡しながら) ……しかしこの店が軌道に乗るとは驚きだな。

こんな廃ビルの地下にひっそりあるバーがなあ……。俺もお前に招待されるまではまるで知らなかった。

月島 私が招待したのはお前以外の高校の同級生の友達だ。お前を呼んだ覚えはない。

日高 小娘、聞いたか今の？ 呼んだ覚えはないだよ！ 招待状まで出して

おいて。

月島 日高、お前には出していない。お前は私の友達の招待状を奪って無理やり来ただけだ。私は覚えている。お前が私の友達の招待状を持ってやって来た日の日付を言っただろうか？

日高 結構！ 結構！ コケッココー。完全記憶のお前が言ってるんだから間違いないよ！

木下 マスター。この人がさつきも言っただけで完全記憶って何ですか？

日高 何だ知らんのか小娘。この男はな、今までの人生で見たもの、聞いたもの、嗅いだもの、食ったもの、触れたもの。みいんな記憶してやがるのさ。それも詳細にな。テストじゃいつも満点だった。……まあテストに関して言えば俺もいつも満点だったがな。

月島 それはいつもお前が私の答案をカンニングしていたからだろう。

木下 うわー。最低ですね。自分で勉強するべきですよ。

日高 ばれなきやいんだ。ばれなきや。第一勉強するしないの点でいえば、こいつなんて1回見るだけで全ての勉強が終わっちゃうんだから勉強してないのと一緒にだ。俺なんか毎日いかにしてこいつの答案を見るか必死で考えたもんだ。毎回こいつと席が近いとは限らんからな。鏡を駆使してちよくど自分のところに来るようにこつこつやって。他にも……。

木下 (遮って) でも完全記憶っていきなり言われてもピンときませんね。

月島 そりゃそうだろうな。……でもこの店の売りはその完全記憶でもある。

木下 どういうことですか。

月島 「マスターいつもの」ってやつあるだろ。このカクテルバー「Memories」では一度「いつもの」に指定すれば、どれだけ期間が空こうとそのお客さんの「いつもの」に答えられる。あと、うちのメニューはオリジナルカクテルを含めて5千種類以上ある。そして私はレシピはもちろん、その全ての材料の黄金比まで正確に記憶している。

木下 すごいですねー！ 私このお店で働けてよかったです。

日高 そうだコイツはすごいんだ。(得意げに) たとえば俺が今飲んでるこのロングアイランドビーチ。コイツをおれが「いつもの」に指定したのは確か……15年以上も前だ。

月島 正確には20年前だ。そいつは作るのにとっても手間がかかるんだが、それを知ったコイツが嫌がらせで「いつもの」に指定したんだ。

木下 20年前から嫌な奴だったんですねこの人。

月島 コイツが嫌な奴なのは2千年以上前からだ。

日高 そりゃすごい。俺はキリストが生まれる前から嫌なやつとして世界に君臨していたわけだ。今世紀最大の謎は日高教つてのがどうして生まれなかつ

たのかったことだな。

木下 (無視して) でもすごいですね。本当に何でも覚えてるんですか？ 例

えば……今してる会話みたいに下らないものでも。

月島 ああ。

日高 私の会話が下らなかつたことは一度もないが、まあいい。簡単な実験をしてやろう。小娘。昨日の夕飯を覚えてるか？

木下 小娘じゃなくて木下真琴です。

日高 何でもいい。答えろ！

木下 こわっ。……カレーうどんです。

日高 じゃあ一昨日は？

木下 カレーピラフです。

日高 三日前は？

木下 カツカレーです。

日高 四日前！

木下 コロッケカレーです。

日高 ああっ！ カレーばっかじゃねえか！ 飽きるだろーがよ！ カレーは

一人暮らしの味方ですってか！

木下 何怒ってるんですか？

日高 ……じゃあ1週間前だ。1週間前の昨日は？

木下 覚えてないです。

日高 では1か月前の昨日は？

木下 (ひどく困った顔をして) ……覚えてないです。

日高 まあだいたいそんなもんだ。だがこの月島暗記って男は違う。さあいく

ぞ。昨日の夕飯は？

月島 カレーうどんだ。真琴と一緒に食べた。

日高 一昨日は？

月島 カレーピラフだ。真琴と一緒に食べた。

日高 カレーピラダイスを創り出したのはお前か！

月島 5日前からカレーずっとカレーだ。悪いか？

日高 悪かない。ただタイミングってあるだろうが。

月島 私は過去のこととは全て覚えているが、未来予測は一切できない。

日高 そうだな。……じゃあ1週間前の昨日だ。

月島 オムライスだ。

日高 1か月前の昨日。

月島 チンジャオロースだ。ピーマンをいつもより多めに入れてみた。

日高 じゃあ1年前は

木下 (かぶせて) すごい！ じゃあ1年前の昨日とかも覚えてるんですか？
月島 リゾットだ。ちなみに塩を3gほど入れすぎた。

日高 2年……。

月島 (かぶせて) すごい！ そんなことまで覚えてるんですか？ じゃあ2年前の昨日は？

月島 お好み焼きだったな。友達の家で食べた。

木下 じゃあじゃあ3年前

日高 (かぶせて大声で) 15年前は？ 15年前の昨日はどうだ？

間。

月島 15年前は……15年前の昨日は……食べる暇が無かったな。普段は仕事の合間に食べるんだが、そんな暇はなかった。

木下 暇がなかったって？ 何かあったんですか？

月島 ……。

月島、日高の方を見る。

日高 ……。

木下 おじさんにも関わりがあるんですか？ このうるさいおじさんが黙っちゃうような何かが、15年前に起きたってことですか？

日高 暗記、おかわり。いいか小娘、俺がいつもいつも意気揚々としゃべってばかりの人間だと思ふなよ。俺だって時にはセンチメンタルになることがあるんだ。日高教の教えは99%のおしゃべりと1%のセンチメンタルだ。

木下 何ですかそれ？

月島 コイツはいつでもおしゃべりということだ。

木下 なるほど。

日高 ……小娘、ドッペルゲンガーって知ってるか？

木下 はい。自分とまったく同じ人間が世界のどこかにもう1人いるってやつですよね。

日高 ああ。俺はさつきそいつを信じそうになった。

日高1枚の写真を出し木下に見せる。

木下 え？ 私？ なんで？

日高 娘だ。梨沙という。今生きていたら30歳のはずだからドッペルゲンガー

であるはずがない。他人の空似ってやつだ。

木下 娘さん……亡くなったんですか？

日高 ああ。……15年前にな。

月島 日高、お前……。

日高 小娘、お前が俺の可愛い娘に似ているのも何かの縁かもしれない。15年前の昨日の話をしやろう。

木下 もしかして……娘さんが亡くなったのって……？。

日高 そう急ぐな。娘の命日は15年前の昨日ではない。聞きたければゆっくり話してやるから。コイツが。(月島の肩に手を置く。)

月島 私が？ なぜ？

日高 完全記憶のお前が話した方が正確だろ？ 昔話にウソはいらない。なあ聞ききたいだろ小娘？

木下 聞きたいです。小娘じゃなくて木下真琴ですけど。

月島 ……(何か考える。)わかった。私の口から話そう。15年前の昨日、ここで一体何があったのかを……な。

徐々に暗転。月島、日めくりカレンダーをめくり出す。

次第にモーツァルトの曲が流れ出す。

第2章 ピアニストは十五年前のメロディを覚えているか

そこは15年前のバー。

カウンターでは暗記が酒の準備をして、火口のもとに届けようとしている。

火口はピアノを弾いている。

そこへ日高が入ってくる。

日高 いっちばーん。いやあなんでも一番というのは気持ちがいいものだな。

おい暗記、いつもの。

月島 日高、ここではマスターと呼んでほしいな。

日高 なんて高校の同級生をマスターなどと呼ばにやならんだ。マスターってのは日本語にすれば、主人やら達人ってことだろーが。俺はお前をそんな風には思っていない。よって俺はお前をマスターなどとは呼ばん。

月島 そうか残念だ。しかしさらに残念なことに、昨日と違って今日お前は一

番ではない。

日高、火口に気がつく。

日高 最近しよっちゆう来てるな。あのイケメンピアニスト。

月島 私は大歓迎だ。ただの飾りとして置いてあったあのピアノから店内にBGMが流れるとは思ってもみなかった。

日高 開店当初からあるもんな。

月島 開店当初から手入れなどしたことが無い。本当にただ置いてあっただけだ。まあ今でも私は置いてあるだけで、彼が手入れや掃除をしているのだが。

日高 もうくれてやったらどうだ？

月島 ここにあってほしいんだと。私が唯一、一切触れない店内のものがあのピアノだ。

日高 ……モーツァルトか。俺は音楽にあまり興味はないが、いつも思う。モーツァルトはお前にぴったりだ。

月島 確かに昨日ここでお前が弾いたねこふんじやったに比べればな。雲泥の差だ。

日高 あれは昨日のお前にはぴったりなんだ。

月島 単にお前があれしか弾けんだけだろう。で、どうしてモーツァルトが私にぴったりだと？

日高 モーツァルトってのは「下書きをしない天才」といわれたらしいじゃないか。頭の中だけで曲を作っちゃうわけだろ？ ものすごい記憶力じゃないか。もしかしたら、モーツァルトも完全記憶の持ち主かもしれんな。

月島 モーツァルトの曲の草稿や修正の跡は見つかっている。

日高 自分はモーツァルトよりもすごいと言いたいわけか？

月島 そういうわけではない。

日高 だがもしかしたらモーツァルトはわざとそういう跡を残したのかも知れんぞ？

月島 どうしてだ？

日高 お前も高校時代にやる必要のない問題集やらを解いていただろーが。完全記憶であることを隠そうとしていた。

月島 お前が気づいてみんなに言いふらすまでは……な。

日高 モーツァルトも自分が天才であることを隠したかったのかも知れんぞ？

月島 憶測にすぎないな。

ピアノの演奏が止まる。

日高 何だ今日はもう弾かんのか？

火口 いえ、ちよっと休憩です。明日は休みなんで今日は閉店までここにいようかなと思ひまして。マスターいつもの、おかわり下さい。

席に座る火口。

日高 ……そういえばお前と話すのは初めてだ。

火口 はじめまして。

日高 やっぱりプロとか目指しているのか？ だったらここでそのピアノを披露するのはお勧めしないな。こんな廃ビルの地下にあるツチノコ並に発見の難しいバーでは宣伝効果はゼロに等しい。

月島 おい日高、失礼だ。火口はプロのピアニストなんだ。

火口 いいんですよマスター。プロとはいってもまだまだ新人です。精進が足りません。

日高 ふうん。謙遜するねえ。で、なんでこんなところでピアノを弾いているんだ？

火口 僕、このお店の空気がすごい好きなんですよね。すごく落ち着くんです。

日高 ほう。マスター冥利に尽きるだな暗記。

月島 そうだな。あえてこんな場所を選んだ甲斐があった。

日高 待てよ……。火口……火口……ああ火口！ 知ってる知ってる。期待の若手ピアニスト火口飛鳥じゃねえか！ うちの雑誌でも何回か取り上げることがある。

月島 コイツは週刊「ウエンズデー」の記者をやっているんだ。

火口 そうなんですか。週刊「ウエンズデー」さんには僕もいろいろとお世話になっていきます。

日高 そりゃそーだろ。プレイボーイピアニスト火口飛鳥、芸能人女性との密会現場を激写！ つつって何度も記事になってるんだからよ。まあ安心してくれ。俺もプレイボーイだからな。プレイボーイの気持ちはよくわかる。

月島 お前がプレイボーイだとは……。初耳だ。

日高 そういえばお前にいうのは初めてだ。

火口 味方になっていただけると助かります。僕も週刊誌には困ってます……。

日高 気持ちはわかるが味方をするかどうかはまた別の話だ。(思い出したように) ああ、そうそう、モーツアルト。好きなのか？ いつも弾いている。

火口 はい昔から好きですね。特に最近、プロになってメディアに出ることが

多くなつて弾く回数が増えました。落ち着きを求めているんですかね。

日高 モーツアルトの曲はα波を出す効果があるらしいからな。

火口 α波？

日高 人間がリラックスしているときに出る脳波のことだ。さらにモーツアルトの曲には興奮した交感神経を鎮める作用もある。他にも病氣や怪我の痛みを和らげたり、回復を早めたりする効果もあるらしい。モーツアルト様万々歳だ。

火口 すごいですね。知りませんでした。

突如水川が飛び込んでくる。息を切らしている。

水川 やつと見つけたわ！

顔を見合わせる月島と日高。

月島 いらつしやいませ。

水川 客じゃないわ！ 私（以下あたし）はその男に用があるのよ。

日高 俺？ 俺はお前なんか知らんぞ！

水川 あんたじゃないわ！ 私が用があるのはその猫つかぶりのピアノスト

よ。私はいつに騙されたのよ！

日高 そいつはひどいな。

火口 人聞きの悪いこと言わないで下さいよ！ 騙そうとしたのは水川さんの方じゃないですか！

水川 結果的に私がお金を損してるんだから、悪いのはあんたよ！

日高 まあまあお姉さん。そんなに感情的になっても議論は進まない。議論はもつと落ち着いて紳士的に行われるべきだ。

水川 何なのよあんた！ いきなりしゃしゃり出てきて！ あんたには関係ないでしょ！

日高 それが大いに関係あるんだな。この店は俺の友人が経営しているバーだ。そこで騒ぎを起こされると友人である俺はひどく気分が悪くなる。加えて俺は記者をやっている。注目の若手ピアニストにスキヤンダルとあらば飛びつかんわけにはいかないだろう？

月島 この男の論理はともかく、私の店で騒ぎを起こされるのは私としても防ぎたい。できることなら警察を呼んで解決するという手段は使いたくないのだが……。

水川、2人の勢いにのまれる。

水川 ……私としても警察を呼ばれるのは面倒だから静かにしてやるわ。マス
ター！ あたしにもお酒！ 何かお勧めのやつ
月島 ではアレキサンダーはいかがでしょう？
水川 酔えれば何でもいいわ。

水川、月島からカクテルを受け取りテーブル席に移動する。

水川 さあ話し合しましょう！

火口、店から出て行くこうとする。それを止める日高。

日高 お前はまだ帰るべきではない。 ……この女の話はまだ終わっていない。
これから冷静に議論を展開していこうじゃないか。

火口 僕、このあとちよつと用事がありまして……。

日高 ウソだな。

火口 え？

日高 俺は暗記と違って昔のことは逐一覚えちゃいないが、さすがにさっきお
前が今日は閉店までいるって言ったこと位は覚えている。

火口 急用を思い出したんです。

日高 ほくう。このタイミングでか？ 何だいつてみる？ さん、にー、いち、
ハイ！

火口 いっ犬の散歩に……。

火口、言った直後に赤面。

日高 はっはっは。残念だったな。犬の散歩は明日にでも行ってやれ。今日は
そこのお姉さんと朝まで議論だ。

火口 ……わかりました。こうなったら、とことん議論につきあいましょう。

火口テーブル席に座る。

水川 おかわり。

月島 かしこまりました。

水川 この男はね、他に女がいるのに私の金目当てで私に近づいて来たのよ。

火口 それは水川さんですよ。近づいてきたのはそっちじゃないですか！
水川 そっちよ。
火口 そっちですよ。
水川 こっちだったとしても騙したのは絶対にそっちよ！
火口 そっちですって。
水川 そっちよ。私は実際、3千万の損失を出しているのよ！
火口 それはそっちが騙そうとしてきたからじゃないですか！
水川 そっちよ！
火口 そっちですって。

水川は酒をぐいぐい飲んでいく。次第に酔いが回っていく。日高は「いいぞいいぞ姉ちゃん。」と掛け声。
2人の議論は小声になって続く。

月島 ……日高、この無意味な議論を朝まで続けさせるつもりか？

日高 もうすぐこの手の問題解決のスペシャリストが来る。

月島 ？

日高 零だよ。

月島 ああ、金子さんか。今日は年に1度、お前達がここで会う結婚記念日だ。

お前が金子さんと結婚した時はさすがの私もショックだった。

日高 言ったろ。俺はプレイボーイなんだ。

月島 確かに昔から金子さんはこういう男女間のもめ事を解決するのが得意だ。

日高 ああそうさ。得意も得意、大得意さ！ 見事、鮮やかに、離婚されたよ俺は！

月島苦笑する。そこへ金子が入ってくる。

日高 ほら、噂をすればなんとやらだ。

月島 いらっしやい金子さん。

金子 月島君、久しぶり！ ごめんねー。予定より遅れちゃって。目覚ましちゃんとかけておいたはずなんだけどなあ。

日高 なぜ暗記に謝る？

金子 あらっアナタいたの？

日高 いたのも何も毎年！ 今日！ ここで会うのが俺たちのルールだろうが！

金子 そうね。アナタが私にプロポーズしたこの場所だね。

月島 金子さん。

金子 なぁに？

月島 目が腫れている。まるでさっきまで泣いていたみたいだ。

金子 違うわよ！ さっきまで寝てたからよ！ 化粧もろくにできなかったわ。

日高 ばつちりめかしこんでんじゃねえか！

金子 まあそりゃ、だって月島君に会うんだもん。当たり前でしょ？

日高 何を言ってるんだか。……そんなことよりも、ちよっと協力してほしいことがあつてな。

日高、金子を連れて隅に行く。

金子 なぁに？

日高 いいから、いいから

金子 どうしたの急に？ なになに？

隅で日高が金子に状況を説明する。

金子 まっかせなさーい！ そーゆーの得意なんだから私！

日高 身にしてみても知ってるよ。

月島苦笑。金子すたすたと水川のもとへスキップしていく。

金子 水川さーくん！だっけ？ アナタ下の名前なんて言うの？

金子のテンションにあっけにとられる水川と火口。

水川 麗ですけど……あなた誰ですか？

金子 あそこにいるうるさいの元妻よ。麗ちゃんか……。いい名前ね。よしっ。麗ちゃん、話は聞いたわ！ ちよっと女同士で話しましょう！

金子、水川を立ち上がらせ、外へ連れ出そうとする。

水川 え？ なんでなんでなんで！

火口 ちよっと待って下さい！ まだ話が終わってないんです。

金子 はいそこうるさい。アナタはちよっと黙ってなさい。さあいきましょーう麗ちゃん！

水川 あのっ。ちよつと。何なんですか！ 一体！
金子 いいから、いいから！

水川、金子に引きずられるように外へ出る。
呆然とする火口、日高、月島。

火口 何なんですか今のは……？

月島 変わってないな金子さんは。

日高 乗ほど変わらない女を俺は見たことが無い。俺たちと同級生だぞあいつ。
どんだけ若づくりなんだ？

月島 性格もまるで変わってないな。

日高 (火口に) 安心しろ。直にこの事件は解決する。

火口 事件って……。

日高 お前は黙ってモーツァルトを弾いていればいいんだ。

火口 そんな……。

しぶしぶ。ピアノに向かう火口。

月島 顔はともかく……お前もまるで変わっていない。

日高 それを言ったらお前もだ。ただ……。

月島 ただ？

日高 俺は変わったさ。……人は変わるもんさ。何かのきっかけでこうふいと
とな。

月島 そういうものか。

日高 そういふもんだ。

火口 そうですね。人は変わる。何かのきっかけで、ふいつと。

間。

日高 そうだ！ 暗記！ 火口！ お前らこのあたりの情報には詳しいのか？

火口 いや、僕はこのあたりだとここにしか来ませんから……。

月島 私も自分の店以外のことは、あまり詳しくくないな。記者であるお前の方が
詳しいんじゃないか？

日高 聞いてみただけだ。

月島 しかし最近はこちらへんも物騒だという話はよく聞くな。薬物売買やら
婦女暴行やらでな。

火口、ピアノを弾き始める。

日高 どちらも人間として恥ずべき最低の行為だ。暗記！ どうして俺がジャーナリストになったか知ってるか？

月島 知っている。その話をお前がするのはこれで92回目だ。「俺がジャーナリストになったのは警察では決して暴けない事件を自らの手で暴きだし、世間に知らせることで犯人を罰するためだ！」だろ？

日高 お前の唯一の欠点は同じ話を2度以上受け入れないってことだ。テレビを見てみる！ 大物芸能人が2度も3度も同じネタを使いまわしてやがる。

局が違えばいいとかそういう問題じゃないだろう？ それに比べればアマチュアの俺が同じ話を何度しようと大したことではない。

月島 お前がその話をするのは今ので91回目だ。

日高 なあ暗記……お前は完全記憶なんて能力を有しながら何でバーの経営なんかやってるんだ？

月島 能力は役に立っている。悪いか？

日高 お前は埋もれる宝石だ。お前がひとたびYESと言えば、すぐに俺が前の記事を書いて宝石を光輝かせてやるのに……。

月島 光り輝く宝石よりも道端に落ちている石ころの方が美しいということもある。

突如鼻歌を歌いながら土屋が入ってくる。

日高、トイレに行くため席を立つ。

第3章 墮落者は十五年前の酒の味を覚えているか

月島 いらっしやいませ。

土屋 どうもマスター。いつもの下さい。

月島 かしこまりました。

土屋 どうですマスター。ピ、ア、ノ。譲って下さる気になりました？

月島 あなたがその件でここへ来るのはもう77回目だな。

土屋 はっはっは。ゾロ目じゃありませんか。これはきつと今日いいことが起こる予兆ですな。そうですね、例えば、あのピアノを譲っていただける……とか？

月島 土屋、あのピアノが美術的にどれほどの価値があるのかは知らないが、

私は今あそこでピアノを弾いている火口が承諾しなければあれを譲るつもりはない。

土屋 そうですか。これはこれは……。では仕方ありません。いつものように火口君と交渉するとうましようかね。

土屋、火口のもとへ向かう。

土屋 ひっぐつちさーん！

火口 何ですか？

火口ピアノを止める。

土屋 そろそろそのピアノ譲っていただけませんかねえ。これでどうです？

土屋、札の入った封筒を火口の手握らせる。

火口 土屋さん、このピアノは僕のお気に入りなんです。自分が死ぬ時はこのピアノを墓の中に一緒に埋めてほしい。それくらい愛着のあるピアノなんです。これは絶対にお譲りできません。

火口、月島に見えないようにピアノから何かが入った袋を取り出し、土屋に渡す。土屋それを受け取りカバンの中に入れる。

土屋 そこまで言うのでしたら仕方ありません。今回は引きましよう。しかし私は諦めませんよ。またそのうち交渉に参りたいと思います。

カウンターに戻る土屋。火口、ピアノを再開する。

土屋 おかわり下さい。

月島 いつも思うが随分とあっさり引くんだな。

土屋 こういう交渉は粘りが大事なんですよ。1回1回は大したことはなくても……そう、こうやって77回も続けているとじわじわじわじわと、これほど熱意があるならば譲ってあげてもいいかなあという気持ちになってくるんです。執念ですよ。

月島 そうなのか。しかしそんなに執着するところをみると相当な品なんだな、あのピアノは。どういふものなんだ？

土屋 え？ あっ……ああそうです。相当なもんなんです。いいピアノですよ。あれは……。とてもいいピアノです。

月島 ……。

土屋 マスター。私普段何してる人に見えます？

月島 薬物売買と婦女暴行。

間。

土屋 えっ。なつ、何を言い出すんですか急に！ びっくりしますなあ、もう！

月島 最近このあたりで流行っているらしい。

土屋 私全然美術商とかでも何でもありませんよ。ただのサラリーマンなんです。あっ一応課長です。まあだから美術品の価値とかって全然わからないんです。でもいいものを見つけるとどうしても欲しくなってしまうんですね。あのピアノもそうです。何か頭にびびっときたと言いますか。波長が合うとかいうんですかねえ。運命の出会いっていうんですかねえ。とにかくもう止められなくなっちゃうんですよ。

月島 サラリーマンの安月給でそんな趣味だと何かと大変そうだな。

土屋 私は独り身ですからね。お金なんて風俗に行きさえしなきゃいくらでも余りますよ。

月島 女はやらんということかな？

土屋 昔とある女にこっぴどく騙されましたね！ あれはもう詐欺ですよ詐欺！ 尻の毛までむしり取られたってやつです。しかも結局一発もやらせてもらえなかったんですよ。

月島 で、その女は？

土屋 ある日煙のようにいなくなりました。私のもとに残ったのは多額の借金とたまりにたまった性欲だけです！

月島 で、風俗に金をつぎ込んだわけか。

土屋 ……まあ、そういうことです。で、決めたんです！ もう絶対女にはお金は使わないと！

トイレから出てくる日高。

日高 風俗には行かずにたまりにたまった性欲は行き場を無くしてどこへ行ったのかねえ？

土屋 もう自分で処理するしかないでしょう！ ただ処理しても処理しても終わった後の喪失感というか背徳感というか……は拭い去ることができないん

ですよお！

月島 思春期の男子か。

土屋 男なんてみんなそうでしょう？ サラリーマンって色々たまっちゃうんですよ！

日高 暗記、俺にトム&ジェリーをくれ。

月島 また面倒くさいものを……。

日高 ではメニユーから外せばいい。

月島 お前以外の人に作るならば面倒くさくはない。

日高 では俺専用のメニユーを作ればいい。

月島 それはそれで面倒くさい。

そこへ金子と水川が帰ってくる。

土屋、水川を見て驚き口をパクパクさせる。

水川 雫さあん！ 私一生ついて行きます！ こんな男もう忘れまーす！

テーブル席に座る水川。

水川 マスターいつもの！

月島 さっきのアレキサンダーでよいということかな？

水川 よいということー！

月島 かしこまりました。

日高 どんなマジック使ったんだか。

月島 金子さんは天才だ。

金子、2人に向かってVサインを送る。

金子 さあて次はキミの番だよ。飛鳥君！

火口 えっ。いいですよ僕は……。

金子 はいはい文句言わなーい。私キミのことよく知ってるのよ。注目の若手

ピアニスト火口飛鳥君！ 会えて嬉しいわあ！

火口 いやちよつと待って下さいよ。話聞いて下さいってば！

金子 聞く聞く！ もうたっぷり聞いちゃう！

火口 いや、そういうことじゃなくてですね！

火口を連れ去る金子。

日高 もはや人さらいだな。
月島 うむ。

先程から口をパクパクさせていた土屋が水川に向かって大声を出す。

土屋 うっ、あっ、あっあっ悪魔だ！ あの女！ 私を！ 私を破滅に追いやった。悪魔だーーーーー！

水川 何あんた？

日高 何だ？ 今度は何だってんだ！

月島 もしかしてさつき土屋が言ってたとある女って……。

日高、月島、土屋に向けていた視線を水川に移動させる。

土屋 はあ、はあ、忘れたとは、言わせませんよ……。

水川 ……ああっ。ツツチー！ ツツチーじゃない！ 覚えてる覚えてる！ 元氣してた？

土屋 元氣してた？ ですって……。私があなたに逃げられてから今までどれだけつらい人生を歩んできたのか、あなたわかるんですか！

水川急に態度を変え、わざとらしく泣き出す。

水川 ひどいツツチー……。私、逃げてなんかないわ……。仕方なかったのよ。実は……あの時私前に付き合ってた悪い男に追いかけて……。……。

土屋、急に泣き出した水川におろおろする。

土屋 そ、そうだったんですか。

水川 そうなのよ……。あの時はもう逃げるしか手段が無かったのよおお。

土屋 麗さん……。

水川 ツツチー。私、私ツツチーともう一度やり直したいわ。

土屋 ほっ本当ですか？

水川 本当よ。でも、やりなおしたくてもできないのよ……。

土屋 どうしてです？

水川 ……私の父の会社が倒産間近で……。大企業につぶされそうなのよ。そしたらね、なんかその大企業の息子が私のこと気に入っちゃったらしくて。

私、政略結婚でその大企業の息子と結婚させられそうになってるの。父を救うために私、好きでもない人と結婚しなければならぬのよ。

土屋 どっとうすれば？どうすれば麗さんを救うことができますか？

水川 3千万。

土屋 え。

水川 父の会社の負債総額が3千万なの。3千万あれば、父の会社を救うことができるのよ。ねえツッチー。……お願い。3千万……。ツッチーは私とやり直したくないの？

土屋 そっ、それは……。確かに……。私も麗さんとやり直したいですけど……。でも、でも……。

日高 おいつ暗記。尻の毛までむしりとられた男が骨の髄まで持っていかれようとしているぞ。

月島 放っておけばいい。

日高 お前案外冷たいな。

月島 昔からだろ？

日高 確かに。そうかもしれない。

月島 あの女……。水川麗と言ったか。火口に騙し取られた金が3千万らしいから、そいつを取り戻すつもりだな。

水川 ねえお願い。1回3千万を出してくれば会社は救われるの。そして2人で頑張っただけのお金を返していきましょ？ 全部返し終わったら今度は2人の結婚費用のためにお金を貯めるの。

土屋 けっ、結婚して下さるんですか？

水川 もちろんよ！

土屋 ……わかりました！ なんとか用意しましょう3千万！

水川 本当に！ ありがとう！（土屋にメモを渡す。）それじゃあお金用意できたら、ここに振り込んで！ 父の会社の口座よ！

土屋 はいっ！ 頑張りますよ！ これからは2人で！ 手を取り合って、愛のために生きていくんです！

水川 ええっ！

2人手を取り合う。水川、土屋に抱きつく。

日高 まごうことなき結婚詐欺だ。

月島 ああ。

水川、カウンター席に移動する。

土屋、テーブル席で夢うつつの状態。

第3章 アカサギは十五年前の失態を覚えているか

日高 いつもそうやって男を騙しているのか？

水川 こんなんで騙される男が悪いのよ。マスターおかわり！

月島 かしこまりました。

水川 あっマスター。私の「いつもの」それに決定ね。

月島 かしこまりました。

日高 そんなことばかりしているからあのピアニストから金を取られるんだ！

罰があたったんだ罰が！

水川 私の人生の唯一の汚点よ！

日高 そこまで言うか！

水川 今まで騙せなかった男なんて1人もいなかった。男なんて単純よ！

日高 それはどうか？ 男も色々複雑だぞ？

水川 単純よ。おじさんも好きでしょ？ こーゆーの？

水川、日高を誘惑する。

日高 むほほっ！

月島 お前のせいで例外なく男が単純だと証明されてしまった。

日高、咳払い。

水川 でも私だって男が例外なく単純だなんて思っていないわ。仕事をするとき
は男を選ぶもの。マスターみたいな人は決して選ばないわ。

月島 それはどういうことだ？

日高 お前が堅物だということだ。

水川 違うわよ。マスターは複雑な男の部類に入るってことよ。

日高 ではあの男は単純度100%の絶好のカモというわけだ。（土屋をさす。）

水川 そういうわけよ。あなたも気をつけた方がいいわ。言っておくけど、あ
なたも引つかかる男の部類だからね！

日高 ああ怖い怖い。勘弁してもらいたいもんだな。

水川 あらっ。でも騙されている最中の男達ってみんな幸せそうよ？（土屋を
さす。）私、人間生きていくためにはウソは必要だと思うの。まあもちろん私

はそれで生きているんだから当たり前なんだけど。ウソって案外人を幸せにすることが多いと思うの。

月島 そういうものか？

水川 私自慢じゃないけど、今まで騙した男から訴えられたことって一度もないのよね。

日高 まさか。あの男だつてさつきまで怒り狂っていただろーが。

水川 さつきまで……でしょ？ 私騙した男にはきちんとアフターケアをすることをモットーにしているの。最終的に男は騙されたことにすら気がつかないで、遠くにいる私のことを思って借金を返済し続けるの。

月島 じゃあ例えばあの男はこのあとどうなるんだ？

水川 うーん。そうねえ。まだ決めていないけれど、お金を受け取った後、私は事故かなんかで死ぬことにするわ。あの男には私が本当に死んだかどうか確かめる術がないわ。だつてあの男、私のことなくんにも知らないんだもの。死んでしまった私との果たせなかつた約束のためにあの男はお金を返し続けるの。素敵じゃない？

日高 ちつとも素敵じゃない。特にその死んだことにするというのがえげつない。人の死は人間を変えるぞ？

水川 要は気持ちの問題よ。騙されたと思いながら、あの女今度会つたらぶつ殺してやるって言つてお金を返していくのと、亡くなった婚約者のために必死に借金を返すのと、どちらが騙された人の精神衛生上いいかって話よ。

日高 もしかしたら前者かも知れんぞ？ いいか、いつだつて人を生かすのは怒りや憎しみといった負の感情だ。優しい心を持った人間ほどショックによつて自殺してしまつたりするものなんだ。最近日本人の自殺率が上がつてきているというではないか。俺はこいつを喜ばしいこととしてとらえている。

世の中に優しい人間が増えたということじゃないか！

水川 そんな馬鹿な……。

月島 コイツと口論するのは止めておいた方がいい。絶対にこちらが正しいと思つて始めた議論であつても、あれよあれよと言う間に話がすり替えられてこちらが負けた気分になる。

水川 確かにそうね。何で自殺の話になつてるわけ？

日高 おいおい。これは無視できない問題なんだぞ？この世の人間がみんな優しくなつてしまつたら、自殺率は100%だ。人間てのは優しくあっちゃいけないということになるんだ。

水川 つきあつてらんないわ。私この人をターゲットにしなくて正解だつたかも。

月島 そうだな。金はふんできたかもしれないが、おそらく負けた気持ちに

なるだろう。

日高 何だそれは。俺は褒められているのかけなされているのか？

月島 どっちもだ。

日高 ではジャーナリストの俺とピアニストの火口。たちが悪いのはどっちだ？

水川 そりゃ火口よ。

月島 そんなにすごいのか火口は。

水川 あの男普段はへこへこできない男のフリをしてるけどぜったいにやり手だわ！ 有名になったのだからきつと何か汚い手を使ったに決まってるわ。

日高 確かに売名という点ではスキヤンダルは有効だった。世間の人々が一番最初にやつの名を見たのはおそらく有名女優との熱愛報道だろう。誰だったっけなあ。……。

日高、有名女優の名前を列挙する。

水川 とにかくっ。あの男は猫を被っているわ。私も最初は騙すつもりである男に接近したのに、気付いたら変な儲け話に投資させられてたのよ。

月島 よくそんな話に乗ったな。

水川 話の内容は完璧だったから騙されたのよ。私もまさかあのへなちよこ男が私を騙そうとしてそんな話をでっち上げたなんて思わなかったからね。あー話してたらまたいらいらしてきた。マスター。私にカシスオレンジを。

月島 かしこまりました。

水川 まあもうあの男のことはいいのよ。お金も戻ってきそうだし。……あつ。

そうだおじさん記者なんでしょ？

日高 そうだが？ 俺が記者になった理由を聞きたいのか？

水川 違うわよ。私ね、あの猫かぶりピアニストの最大の弱みを握っちゃったのよ。

日高 何だ？

水川 ただじゃ教えられないわ。これはあの男のピアニスト生命を断ちきるほどのネタよ。

日高 ほう。この俺に情報を売りつけようってか。いい度胸だ。いいだろう。

買ってやる。いくらだ？

水川 そうねえ。今日の飲み代出してくれたらそれでいいわ。私今気分がいいの。

日高 気分がいいのは酔っているからだと思うが、まあいい。よし買った。きようは奢ってやろう！

月島 その前に今までのツケを払えよ。

日高 俺はツケなんか一度もしたことが無い。お前が招待状と一緒に無料券を配ったんだろーが！

日高、無料券をずらーっと出す。月島それを回収する。

日高 おいつ。何をする！それは俺のだ！

月島 お前一体どうやってこんなに集めたんだ？ これは私の高校のお前以外の同級生に配ったものだ。

日高 一重に俺の人望だ。

月島、券を破り捨てる。

月島 これからは現金で払えよ。

日高 あーあ。いいじゃねえか友達だろーが！

月島 お前を友達だと思ったことはない。

日高 (咳払い)……とにかくっ。今日の酒代は俺が出してやろう。言ってみろ？ 天才若手ピアニスト火口飛鳥を失脚させるほどのスキャンダルとは何だ？

水川 あの男ね……。じつは……クスリをやってるのよ。

日高 ……。

月島 クスリ？

水川 私見ちゃったのよ。あの男の部屋に行ったときに。それにどうやらクスの売買までやってるっぽいよ。あの男のケータイのメール見たらそんなようなことが書いてあったの。

日高 人のケータイを勝手に見るのはよろしくない。

水川 今そういう話じゃないでしょ！ どう？ すごくない？ これって超スクープにならない？

月島 まさかあの火口が……。だとしたら残念だ。

日高 そうか……。好都合だ。

月島 ん？

日高 いい情報だ。しかしすぐに記事にするのは無理がある。記事にするにはそれなりの証拠とインパクトのある写真が必要だ。

水川 あっそうなんだ。じゃ明日すぐに発表とはいかないのね。

日高 時と場合によるが……。な。

そこへ金子と火口が戻ってくる。

第5章 母親は十五年前の悲劇を覚えているか

火口 雫さあん。僕あなたに一生ついて行きます！

金子 よしよし。これで一件落着ね。

月島、日高、水川の3人、火口と目を合わせようとしなない。

月島 奇跡のショーを目の当たりにした気分だ。

日高 そりゃ俺なんか速攻で離婚されるわけだ。サプライズ。(セロのまね。)

月島苦笑。

金子 月島君いつものちよーだい。

月島 かしこまりました。

水川 (火口に) おかえり。雫さんいい人だったでしょ？ まあお互い昔のこととは水に流して今日は楽しく飲みましょう！

火口 はあ。

火口、土屋の方を見る。

水川 ああ、あの男？ 新しいカモよ。

火口 そうですか……。

火口、ピアノの方へと向かう。

水川 つれないなあ。せっかく許してあげたのに。

ピアノを弾き始める火口。

金子 あっ。この曲知ってる。音楽の授業でやった気がする。ベートーベんだっけ？

日高 それはじゃじゃじゃじゃーん(連命)のやつだ。

金子 じゃあヴィヴァルディだ！

日高 それはトウトウトウトウルトウルトウー（四季）のやつだ。

金子 そうだ！ シューマツハだ！

日高 それはふいいーろーん（F1）のやつだ。

金子 あっスタローンだったかしら。

日高 それはエイドリアーローン！（ロッキー）だ。

金子 じゃあじゃあ

日高 お前わざとやってるだろ？

金子 ばれた？ てへっ。

日高 てへっじゃない。てへっじゃ！

水川 金子さんって本当にすごいですよ。その歳で「てへっ」が似合う人ってなかなかいないですよ。

金子 てへっ。

月島 てへっが似合うとはなんだ？

水川 それだけかわいってことよ。いいなあ。私も歳をとつても隼さんみたいにかわいい人でいたいなあ。

月島 かわいさの秘訣は？

金子 エssenシャルダメージケア。かわいいはつくれる！

日高 CMじゃねーか！

月島 つまりは常に流行に気を張ってことか？

水川 そっかあ。私頑張ります。かわいいはつくれる！

日高 男は騙せる！（かわいく）

水川 安心して。あなたは騙さないから。

金子、大きく深呼吸する。

水川 どうしたんですか？

金子 ごめんね麗ちゃん。私これから大事なお話をこの人としなければならぬの。ちよつと席をはずしてくれる？

水川 大事な話？ わかりました。隼さんのお願いだったら私何でも聞いちゃいます！

水川、火口のもとへ。

月島 私はいてもいいのか？

金子 月島君にはいてもらいたいの。それで覚えていてもらいたいの。これからということ全部。

日高 ……。

月島 忘れてしまいそうなことなのか？

金子 どちらかと言うと忘れたいことかな？

月島 忘れたい？

金子 そう忘れたいの……。

日高 ……。

金子 聞いてくれるわね。大和君。

日高 すまんな。

金子 え？

日高 キミが店に入った瞬間から何か重大なことを言おうとしていたのはわかっていた。無理に明るく振舞おうとしているのが伝わった。伝わっていながら俺はキミに面倒事を押しつけてしまった。……聞きたくなかったんだ。キミの話を。少しでも先延ばしにしたかった。すまん。

金子 謝らなくていいわ。……ありがとう。

日高 ……。

金子 本当言うと私ここに来る前ずっと泣いてたんだ。それを隠そうとしたらこんな厚化粧になっちゃった。普段こんなに化粧しないんだけどなあ。でも大和君が面倒事を押しつけてくれてよかった。しばらくの間そのこと忘れていられたし、何よりちよつと元気でした。

日高 そうか。……よかった。

金子 本当はもっと早く言わないといけなかったんだけど……。大和君今日以外連絡とれないから。

日高 そういう約束だからな。

金子、もう一度大きく深呼吸する。見守る日高。

金子 じつはね……。

突如土屋が奇声を発する。まるで何かに怯えているようでもある。

体をがくがくふるわせながら暴れる。

火口、ピアノを止める。

突然のことに言葉が出ない金子。

火口 土屋さん？

水川 何これ？ なにっ！ どうしたの？

月島 酔いが回ったか？

日高 暗記！ とりあえず水だ！
月島 ああ。

火口と日高、土屋を抑えに行く。抵抗する土屋。

土屋 くっ来るなー！ーあ。うわああああああああああ。体が痛いっ痛
い！ 毒だああああああああ。誰かが私に毒を盛ったんだあああああ
あああああああ！

火口 落ち着いてください。

土屋 毒が……。虫が……。毒が！ 虫が！ 毒が！ 虫が！ 私の体の中を
……。うわああああああああああああああああああああ。

水川 何っ？ 何なの！

日高 ……。

月島 日高、水だ！

日高 おおっ！

日高、水を火口にかけてようとするが火口に止められる。

火口 これ以上刺激を与えない方がいいです！
日高 ほう。

土屋、奇声を発しながら日高と火口を振りほどき、鞆をつかみトイ
レへと駆け込んでいく。しばらく奇声が聞こえるが、次第に小さく
なりやがて何の音もしなくなる。

水川 ……おさまった。

月島 ……7度目だ。

水川 え？

月島 土屋があんな風になったのはこれで7度目だ。面倒な酔い方をする人だ。
火口 じゃあ今トイレではいてるってことですかね？

月島 おそらく……。な。

日高 全く世話が焼ける。トイレをいつも掃除しているのが誰だと思っている。
月島 それは私のセリフだ。お前がこのトイレ掃除をしているわけではない。
日高 代弁だ。代弁！ トイレだけにな！

水川 うわー。それひどーい。

日高 ひどくない。むしろうまい部類に入る。大体親父ギャグってのは……。

日高、ぶつぶつ言いながら金子のもとへ戻る。

火口、水川、テーブル席に座りそれぞれ酒を注文する。

日高 すまんな。

金子 びつくりした。今日は大和君、面倒事に巻き込まれる日みたいね。

日高 全くだ。……すまんな。

金子 謝らなくていいって。

火口 あの……。僕達外へ出てましようか？

金子 別にいいわ。聞こえちゃったたら聞こえちゃったで。無関係の人が聞いてくれた方がすつきりするかもしれないし。

水川 そう……ですか。

金子 仕切り直しね……。

金子もう一度深く深呼吸する。

金子 じつは……。2週間前に……。梨沙が……。

日高 ……。

金子 梨沙が……。自殺したの。

静まり返る店内。

月島 ……どうして？

金子 ……遺書が……。残ってたの。そこに全部書いてあった。……あの子、自殺する1週間前に……。レイプの被害にあったらしいの。

日高 ……。

金子 私が……。私が気づいてあげていればっ！ あの子はいつもどおりに振舞っていた。1人で全部抱え込んで！ その日も何一つ変わらぬ笑顔でいてらっしゃいって……。私はっ！ 私は気づけなかった！ どれほどの苦しみを！ どれほどの怒りを！ どれほどの痛みを！ あの娘が感じていたか……。

金子、泣き崩れる。

水川 雫さん……。

日高 雫……。

月島 土屋！ 土屋！ しっかりしろ！（呼吸を確認して）ダメだ。息をしていない。私は人工呼吸を！ 火口！ すぐに救急車を！
火口 はい！

暗転。救急車のサイレンの音。

第6章 復讐鬼は十五年前の罪悪感を覚えているか

カウンターには月島と水川。事件数週間後のバーである。

水川 この間の事件。やっぱりあいつが犯人だったわね。最初から怪しいと思ってたのよ私は。

月島 私は残念でならない。警察から帰って来たのはいいものの、あのピアノはまたただのお飾りに戻ってしまった。

水川 そうね。もうピアノニストとしてはやっていけないもんねあいつ。まあ私は全然構わないんだけど。

月島 しかしまさかあのピアノが薬の売買に使われていたとは……。

水川 さぞかしやりやすかったでしょうね。あなたはこのピアノに触れたことが無いんだもん。

月島 火口を信用していたからな。

水川 このピアノの中にはいつもクスリが入ってた。薬の注文があるたびにあの男はここへ来てピアノを弾いていた。そしてあなたの見ていない隙を狙って金とクスリを交換してたってわけね。

月島 そうらしいな。しかし薬物売買については本人も認めたようだが、土屋殺害については全否定しているらしいじゃないか？

水川 クスリの方は動かぬ証拠が出てきているからね。殺害の方は証拠となるものは一切見つかっていない。毒は見つかってるとはそれを知らないって言ってるんだもの。大方業者に利用されたんだわ。

月島 というと？

水川 ツッチーは追いつめられると何するかわかんないからね。自分たちの方に被害が出る前に業者が消しとこうって考えたんじゃないの？ まんまと利用されたわけよ。あの天才ピアノニストはね。

月島 土屋に殺す意思はなかったということか？

水川 ……というのが警察の見解よ。だから今火口にクスリを流した業者を探ってるんだって。

月島 詳しいな。

水川 彼が警察に勤めてるから教えてくれたの。

月島 その彼というのは新しいカモのことか？

水川 言っただけだったわけ？ 私もう男騙すのやめたんだあ。だから本当にカレ。

月島 やめたのか……。それはもちろん良いことだが、どうしてまた急に？

水川 雫さんに説得されちゃって。そんなんじゃ女の幸せ手に入らないぞーって。

月島 またしても金子マジックか。

水川 土屋が死んで私もちよつと気分悪いところあったし。やっぱり騙されて幸せってありえないのかもって思った。……私今の彼と結婚しようって考えてるんだ。私ずっと人生お金さえあればいいって思ってたんだけど。雫さんと話をしてるうちに金でお金で買えないもののお金を知ったというかなんというか……。まあ私が本当に望んでいるのはお金じゃないって気づいたのよ……。

月島 そうか。

水川 そういえばマスターって結婚してないの？ なんかもてそうじゃない？

ねえどーなの？

月島 私は……。

音楽が流れ徐々に薄暗くなる。

月島、日めくりカレンダーをめくる。水川、ゆっくりテーブル席へ

移動し、静止する。水川は存在していないことになる。

音楽が鳴りやみ光が回復する。火口が入ってくる。

バーは事件5年後になる。

月島 火口！ 5年ぶりだ！ まさかまた会えるとは思っていなかった。

火口 仮釈放ってやつです。マスターいつもの下さい。

月島 かしこまりました。

火口 本当はここへ来るのすごいためらったんですよ。だけどマスターには謝っておきたくて……。多大な迷惑をおかけしてしまいましたし。

月島 確かに、危うく犯人にされかけた。

火口 水川さんが僕が薬物売買を行っていることを暴露するまではマスターに嫌疑がかかっただけだからね。マスター。本当に申し訳ありませんでした。（土下座する）

月島 顔をあげてくれ。そういうのは慣れていない。まあ状況を見ればあの時

点で毒を盛れたのが私だけという結論に警察が至ってもいたしかたない。：
…しかしなぜ？

火口 なぜ？（顔を上げる。）

月島 なぜクスリなんか手を出したんだ？

火口 ……。

月島 話したくなければ強要はしないが。

火口 いえ、お話しします。…：僕がためらいつつもここへ来たのは全てをあな
なたにお話するためのものかもしれません。

月島 どういうことだ？

火口 初めてこの店を訪れた時から、僕にとってこの場所は懺悔の場所なん
です。

月島 懺悔？

火口 僕はとても弱い人間なんです。クスリに手を出したのもおそらくそれが
原因です。だから自分の犯した罪を誰かに救ってほしかったんです。いつも
自分の罪に耐えきれなくなった時にここへ来て懺悔の気持ちを込めてピアノ
を弾いていました。

月島 しかし徐々にここへ来る目的が変わってきてしまった。

火口 そうです。唯一自分の罪を赦してくれるこの聖地を、僕は自分の手で穢
してしまった。最初はそんなつもりはなかったんです。

月島 水川が言っていたぞ。お前は信用のおけない猫かぶり野郎だと。

火口 信じて下さい！ 確かに僕は信用のおけない猫かぶり野郎かもしれませんが
ん。しかし僕はあなたの前だけで！ この聖地だけで！ こうして素の自分
をさらけ出すことができるんです。あなたがいてくれたから…：。あなたが
僕の全てを覚えていてくれたから…：。僕はこうして生きてこれたんです。

…：あなたに見捨てられたら。僕は。僕は…：。

月島 関係が無い。

火口 え？

月島 お前が私をどのように思っているかと、私の前でウソをついていようと
私には関係が無い。ただお前が何を言おうがどんな行動をとろうが、私は全
てを覚えている。お前が忘れていることも、忘れようとしていることも全て、
な。

火口 マスター。

月島 私とて人間だ。興味があれば質問するし、調べたりもする。しかしその
情報をウソかどうか判断する能力はもっていない。ただ覚えている。それだ
けだ。お前がウソをつこうがつかまいが私には関係が無い。

火口 ……：そうですか。

火口、ピアノの方へよろよろと向かっていく。椅子に座り一息つく。

火口 わかりました。関係ありませんよね。でもあなたは全てを覚えていて。フツツ。だからここはいいんです。しかし僕は自らの手でこの聖地を穢してしまつた。……マスター。僕は今から最後の懺悔をします。ウソだと思つていただいても構いません。ただ……全てを覚えていてください。

月島 頼まれずとも覚えている。忘れろといわれる方が無理な話だ。

火口 (笑つて) そうですね。

火口ピアノを弾き始める。月島は黙つてそれを見ている。

火口 僕の聖地よ！ 今から僕は全ての罪を告白する！ 最初は……最初はただピアノを弾くことが好きだった。自分の手から紡がれるメロデイがとても心地よかつた。それで充分だった。音楽が自分の手の中にある！ その感覚が……。しかし次第に離れて行つた。離れて行つた。僕の手から音楽が！ あの心地よさが！ 周囲の評価や先生の教えを気にしてピアノが気持ち良く引けなくなつた！ 束縛だ！ 僕は自由にメロデイを紡ぐ権利を剥奪された！ プロになつてからはもう僕のもとに音楽はなかつた。道具だ！ ピアノはもはや金を稼ぐための道具と化してしまつた！ そのころからだ。僕の心の中に埋められない穴ができたのは……。酒も！ 女も！ 麻薬も！ 何一つこの穴を埋めるものはなかつた。この聖地と出会うまでは……。ここでピアノを弾いている間だけ昔に戻れた！ 僕の手の中に音楽が戻つてきた。再び紡がれるメロデイは僕に幸福をもたらした！ 福音だ！ 聖地から福音が聞こえてきた！ しかし時はすでに遅かつた。僕の体を薬がむしばんでいった。依存だ！ 僕はもう薬なしでは生きられなくなつていたんだ！ その浸食は僕の聖地にまで及んでしまつた。後悔だ！ 後悔しかない！ 赦してくれ！ 赦してくれ！ 赦してくれ！ 赦してくれ！ 赦してくれ！ 赦してくれ！ 僕が殺してない！ この聖地に汚らわしい血をまき散らしたのは僕ではない！ 信じてくれ！ 信じてくれ！ 僕はやつていない。僕はやつていない。僕はやつていない。僕は……。僕は……。

火口 静止する。音楽は鳴り続ける。

徐々に薄暗くなり月島は目めくりカレンダーをめくる。

明かりが戻つてくると金子が入つてくる。

止まっていた水川が動き出す。

月島 いらつしやいませ。

金子 月島君。いつもの。

月島 かしこまりました。

金子 今日も来ていないのね大和君は。

月島 ああ。あの日以来一度も顔を見せない。かれこれもう10年になってしまった。

水川 雫さーん！ 私はいますよ——！

金子 なんだか毎年アナタに会いに来ているみたいになってしまったわね。

金子、テーブル席に向かう。

水川 いいじゃないですか。来ない人はいくら待っても来ないですよ。あの火口も仮釈放後、行方不明になったきりここへは来てないんですから。

月島 ……。

金子 そうね。これからは毎年アナタに会いに来ようかしら。

水川 そうですよ。それがいいです！

月島 金子さん……。

金子 なあに？

月島 この10年間言うべきか否かずっと迷っていたんだが……言おうと想っていることがある。

金子 どうしたの急に？ まさか私に告白とか？

水川 きゃー……。

水川、ひやかす。月島あからさまに嫌な顔をして水川を睨む。

水川黙る。

月島 君と……君と日高の娘さん。梨沙さんがだれに強姦されたか、私には心当たりがある。

金子 ……。

水川 うっそ。何で今まで言わなかったの？

月島 当時の君に話したら君はそのまま犯人とともに身を投げかねないほどの精神状態だった。あの頃の君は犯人に対する復讐心のみで生きながらえていたといつてもいい。……しかし10年たった。今の君なら私の話を冷静に受け入れられる精神状態だと思ったのだが？

奇声を発しながら暴れ続ける土屋。徐々に声は小さくなる。
うす暗くなり声と動きが静止する。

月島はカレンダーをめくる。

明るくなった所に木下がふらふらと入ってくる。

ここは第1章の数週間前のバーである。

月島 いらつしやいませ。

木下 えっ何が？ ここ……どこですか？

月島 看板を見なかったのか？ ここはカクテルバーだ。

木下 カクテルバー？ じゃあ私来るはずがないです。だってまだ15歳なんですよ私。

月島 わけがわからない。別に私が君を連れてきたわけじゃない。君が勝手にここへ来たんだ。

木下 そう。……何でだろう？ 私気付いたらここに入った。

月島 ……じゃあここに来る前にいた場所へ戻れ。

木下 ……。

月島 どうした？

木下 あのっ。こんなこと言ったら変人だと思われるかもしれないんですけど……。

月島 問題ない。もう十分変人とみなしている。言ってみろ。

木下 覚えていないんです。自分がここに来る前にどこにいたのか。

月島 馬鹿な……。記憶喪失か？

木下 ……みたいです。

月島 名前は？

木下 木下真琴です。

月島 自宅はどこにある？

木下 わからないです。

月島 自宅の電話番号は？

木下 わからないです。

月島 携帯は？

木下 持ってないです。

月島 財布は？

木下 持ってないです。

月島 ……今警察に電話してやるから。

木下 それは待って下さい！ あの……何故かとはわからないんですけど、私ここにいなくちゃいけない気がするんです。お願いします！ 警察に電話

したら私、家に帰されちゃいます。今の状態のまま家に帰ってもお母さんとかに迷惑かけちゃいますし……。

月島 ここにお前がいると私に迷惑がかかる。

木下 私ここで働きます！ 雇ってください！ 絶対に役に立ちますから！

木下、深々と頭を下げる。木下から写真が落ちる。月島それを拾う。

月島 ……。

木下 どうかしましたか？

月島 ……私の写真だ。それも16年前の……。なぜお前が持っている？

木下 わからないです。

徐々に薄暗くなる。

月島日めくりカレンダーをめくる。

音楽が大きくなっていき暗転。

第7章 アルバイトは十五年前の Memories を覚えているか。

第1章の終りの状態に。

ただし第6章でてきた人物、めくられたカレンダーはそのままである。

月島 あの日はずっと警察の事情聴取で夕飯なんて食べる暇がなかった。

木下 このお店でそんなすごいことが起きていたんですね。

日高 やはりお前の完全記憶はすばらしい。一言一句間違いがない。一切の装飾もない。たいてい人は昔話をしようとすると、その物事が大げさになったりするものだ。しかしお前にはそれが無い。

月島 私だって話を装飾するときはある。

日高 それは意図的にだろう？ たいていの人間は無意識のうちにそれをやっってしまう。記憶を捏造するんだ。

木下 やっぱり完全記憶ってすごいですね！ 私も完全記憶だったらなあ。

月島 忘れられないということは必ずしも良いことではない。忘れたいこともいつまでも心に残り続ける。悲劇は繰り返されるんだ。なあ日高？

日高 そうだな。……おい暗記！ たまにはオリジナルカクテルでも試そうと思っただがお勧めはどれだ？

月島 お勧めか……。そうだな。1つ真琴が作ったカクテルがあるぞ？ 飲んでみるか？

木下 ちよー美味しいですよ！

日高 そうか。ちよー美味しいか。じゃあそいつを。

木下 私の名前にちなんで名づけました。私の名前、真実の真に、楽器の琴な
んで、その名もトゥルーハープです。

日高 安易だな。

木下 でも複雑な味がしますよ？

木下、ニコニコとカクテルを作り始める。

日高 おいつ。そんなものまで入れるのか？

木下 はいっ。美味しいですよ。

間。謎の機械音。

日高 待て待て待て待て。そんなもん入れたらもはや罰ゲームじゃないか。

木下 これが美味しいんじゃないですか。

日高 待てっ早まるな！おいつこら！

木下 ふふふくん。(鼻歌)

日高 わかった。もう何も言わん。

黙って木下を見つめる月島と日高。

木下 はいっ。できました。どうぞ！

月島 どうだ？ 作っているところを見なければ美味しそうだろ？

日高 俺は作っているところを見てしまったぞ？

木下 いいから飲んでみてください。

日高、カクテルを受け取りおそるおそる一口飲む。

意外にも美味しいという表情をするが、すぐに取り繕う。

日高 何だノンアルコールじゃないか。

木下 そりゃそうですよ。私用に作ったんですから。

日高 こんなもんじゃちつとも酔えやしない。

月島 そりゃノンアルコールだからな。

木下 で！ どうですかお味は？

日高 ……悪くない。見た目もいい。飲めない人が雰囲気を楽しむのにはぴったりだ。ノンアルコールカクテルとしては上出来だな。

木下 素直に美味しいって言ったらどうなんですか？

日高 悪くない。

月島 こいつにしちやあ褒めている方さ。

木下 そうなんですか？ じゃあありがとうございます。

日高 ふっ。(笑う。) おっともうこんな時間だ。昔話つてのは時間を忘れさせるなあ。さてお暇しようかね。

日高、席を立つ。

月島 勘定を置いていけ。

日高 はいよ。

日高、無料券を出す。

月島 お前まだこれを持っていたのか……。

日高 まあな。しかし非常に残念なことに今ので最後だ。じゃあな。

日高立ち去ろうとする。

月島 満足か？ 日高。

日高、立ち止り振りかえる。

日高 何がだ？お前のカクテルにか？

月島 とぼけるなよ。満足したか？

日高 ……。何だ？

月島 復讐が果たせて満足かと聞いたんだ。

木下 何言ってるんですかマスター。

日高 ……。

月島 昨日であの事件から15年。……わかったよ日高。なぜお前があれ以来姿を見せなかったのか。なぜ今日になってようやく姿を現したのか。

日高 はっはっはっはっは。(笑い出す。) 遅かったじゃないか暗記。お前なら俺の第一声で気がつくと思っただが。

ピアノが流れ始め、静止していた人々が動き出す。トルコ行進曲

木下 何ですか？ 何の話ですか？

月島 そうだ。考えてみれば今日のお前の言動はおかしかった。意図的に15年前の記憶を引き出させようとしていたようにも取れる。

日高 その通りだ暗記！

月島 日高お前が……殺したんだな。お前が土屋を殺害し、その罪を火口にかぶせた。そうなんだな？

日高 ……。

木下 そんな……。この人が……。やったっていうんですか？

月島 そして昨日で15年。殺人の時効は15年。近年時効は25年に延長されたが、過去に起きた出来事には適用されない。お前は完全犯罪を成し遂げたわけだ。満足か？

日高 はっはっはっはっはっはっはっはっはっは。そうだ！ 全て終わった。昨日で俺の罪は消え去った。人の罪を赦すのは時間だ！ 神などではない。時間が人の罪を浄化し洗い流すんだ！

木下 じゃあ、あなたがやったんですね……。どうして？ どうして平気でそんなことが言えるんですか？ 犯した罪は決してなくなりません。

日高 神が俺を見捨てたからさ。俺の天使を神は奪い去った。なあ暗記？

月島 犯行は実にシンプル。しかしそれゆえに誰も気がつかなかったんだ。この犯行に必要なのは情報！ ただそれだけだ。そしてあの時点で全ての情報を持っていたのは、日高！ お前だけだ！

日高 いかにも。そうだ私は全ての情報を持っていた。しかし俺は全て知らないフリをした。

月島 そう、お前は知らないフリをした。お前はあの日以前から本当は知っていたんだ。娘さんが亡くなったことも。なぜ自殺したのかも。娘さんを自殺に追いやった犯人が土屋であるということも。……そしてお前はその土屋を調べ、火口とのつながりを知り、私のバーでクスリの売買をしていることを突き止め、それを利用した。

日高 娘のことは全て知っていた。常に見守っていたんだ。……まあそれでも、俺はなにも防ぐことはできなかったわけだが……。俺に出来たのは復讐だけだ。火口のことでも元々知っていた。何を隠そうあいつのスクヤンダル記事を書いたのはこの俺だ！

月島 お前はあの事件の前の晩、私のバーを訪れねこふんじやったを弾いた。あの時お前は毒とクスリをすり替えたんだ。お前は私がピアノに一切触れな

いことも、次の日が取引の日だということも知っていた。後は土屋がその毒をクスリと間違えて飲み、死ぬのを待っただけだ。情報を持っているだけでお前はほとんど行動を起こすことなく犯罪を終え、罪を火口に、ひいては火口にクスリを流した業者にかぶせたわけだ。

日高 その通り！ ご名答！ 神は私を見捨てたが、悪魔は私に味方したようだった。しかしすべてがうまくいったというわけではなかったがな……。

月島 水川が存在。そして土屋が私の店で死んだこと。

日高 あの女がやって来た時は、正直焦った。あの女のせいであの日の取引が無効になり、次の火口の取引相手が死ぬということもあり得たからな。しかし結局は俺の復讐の手助けをする形となった。

月島 水川は火口がクスリをやっていることを知っていた。そしてそれを聞いたお前は好都合だといった。私はそのセリフが火口を記事にする上でのことかと思っただが、あれはそういう意味ではなかったわけだ。

日高 水川の証言があれば、あっさり火口が犯人となる。そういうことだ。ただ土屋がここで死んだことは完全に失態だった。すまないな暗記、お前の店を汚すつもりはなかった。

月島 なぜだ？ なぜだ日高！ なぜそんな形で復讐を果たした？ お前ならばもつと別の……別の方法を思いついたはずだろう？

日高 これが最良だ。いいか暗記！ 娘が死んでしまっただけは、証拠が何も無いんだ。土屋が娘を犯したという証拠がな！ それに仮にあいつが逮捕されたとしてもあいつに課される刑罰は2年以上15年以下の有期懲役だ！ しかも初犯は3年以下の執行猶予がついたりもする。ふざけるなあああ！ 娘の未来を奪った男が！ 15年もちたんうちにまた元の生活を手に入れることができるんだぞ！ そんなことが許されると思うか！ 俺は正しい行いをした。法がやつを裁かぬなら、神がやつを裁かぬなら、やつを裁けるのはこの俺しかない。

月島 お前の言い分はわからなくはない。しかしだからと言って人を殺すことが正しいことには決してならない。命を奪う権利など誰にもありはしない。

日高 こんな話を知っているか？ スペインで娘を強姦された母親が仮釈放されて出てきた犯人にガソリンをかけ引火し殺害した。面白いことに殺された場所はバーだったそうさ。もちろんその後、母親は逮捕され、裁判が行われたが、その初出廷の日。群衆はよくやった！ とその母親を拍手喝采で出迎えたそうさ。その母親の娘は強姦が原因で精神病を患っていたことが考慮され、母親の罪はほとんどないものとなった……。同じだよ暗記！ 正義は俺のもとにある！

木下、日高の頬を思いっきりビンタする。

動いていた人間達が静止し、音楽は鳴り止む。

人間達は口々に「いたい、いたい」と言いながらその場にゆっくり倒れていく。

日高 何をする小娘！

木下 小娘じゃなくて木下真琴です。すいません。いらつとしたもので。

日高 お前この俺を否定するつもりか！

木下 そうじゃありません。ただ……。復讐を果たして、人を殺して……。そんなことをして娘さんが……。梨沙さんが喜ぶとも思っているんですか？

日高 うるさいっ！ 娘と同じ顔でそんなセリフを吐くんじゃない！

木下 いくらでも言いますよ。そんなことじゃ娘さんは浮かばれない！ 娘さんはそんなこと望んでいなかった！ 娘さんはあなたに人殺しになってほしかったわけじゃない！

日高 うるさいうるさいうるさいうるさいっ！

木下 私、思ったんです。自分でこんなこと言うの変ですけど……。私、梨沙さんの生まれ変わりなんじゃないかなって。

日高 戯言を！

木下 誕生日がっ！ 私の誕生日って梨沙さんが亡くなった日と同じなんですよ。

日高 偶然だ！ そんなことは何の根拠にもならない。

木下 偶然でも何でもいいです！ でも私はそう信じます。だから私これからも全て覚えていきます。15年前に何があったのか、今日ここであなたが何を言ったのか……。全て。

日高 やめろやめろやめろやめろやめろ！ そんなことをして何になるというんだ？ 宗教じみている。

木下 宗教でも何でもいいです。とにかく私は覚えています……。あなた言えますか？ 私の目を見て、私を梨沙さんだと思って、「喜べ梨沙！ お前を犯した男はこの俺が殺してやったぞ！」って。言えますか？

日高、木下の肩に手をかけ何か言おうとするが、言葉にならない。

やがてその場に崩れ落ちる。倒れていた人間達が立ち上がり再び動き出す。と、同時に音楽も流れ出す。

日高 お前は梨沙じゃない！ 梨沙は……。梨沙は……。15年前に……。うわああああああああああああああ。

木下 日高さん！ 罪を許せるのは神でも時間でもない。自分自身なんです。

あなたは自分自身を許せてなんかいないでしょう？

日高 あああああああああああああああああああ。許せるわけないだろうが！
毎日……毎日だ！ 15年前前の景色が装飾を帯びて俺に襲いかかってくる！
フラッシュバックしてくるんだよ！ そのたび俺は言い続けるんだ。赦して
赦して赦して赦して……。

日高、泣き続ける。木下、それを抱きかかえる。やがておさまり、

日高は立ち上がる。人間達は定位置に戻り静止する。

日高 すまないな。こんなことにつき合わせてしまつて……。

月島 時効が過ぎた今日になつても、フラッシュバックは続いたわけか……。

日高 ……ああ、終わらなかつた。解放されなかつた。

月島 お前を裁く者はもういない。警察も。土屋も。娘さんも。お前は私に裁
かれに来たんだな。

日高 ……。暗記。忘れられないつらいつらいな。お前はすごいよ。完全記憶な
んて持つていてよく正気を保つていられるな。どうしたら……。どうしたら
この苦しみから俺は解放されるんだ？

月島 私の方法が参考になるかはわからんが……。私はいつも周囲と己の間に
一線を引いている。常に己を客観視し、己を封じていればつらいことはない。

日高 ふつ。見え透いたウソだな。自己を封じるなどということが人間にでき
るはずがない。お前いつも言つてるだろ？ 私は超人ではないと……。

月島 ……。

木下 私思うんですけど、忘れられないつてことはそれがその人にとって必要
だからなんですよ。だから背負つていかなきゃいけないんです。背負つた上
でそれを抱えて飛び立つんです。生き抜かなきゃいけないんですよ。

日高 ふつ。自分の歳の3分の1にも満たない小娘に説教されるとはな。

月島 大人はえてして子供から学ぶことの方が多いいものだ。

日高 確かに、お前の言う通りかもしれんな。

日高、木下の頭をなでる。ほほえむ木下。

日高 そういえば……零のやつは昨日もここへ来たのか？

月島 ああ。来たぞ。水川も一緒だった。たぶん来年も来るだろうなあ。

日高 そうか。

木下 零さんも私を見て、日高さんと似たような反応をしましたよ。ドッペ

ルゲンガーとは言い出しませんでしたけど。じつは雫さんなんですよね。私が梨沙さんの生まれ変わりだって言ってたのって。

日高 (少し驚いて) そうか……。おい暗記!

月島 何だ?

日高 ……次にここへ来る時はきちんとお前に金を払って飲もうと思う。

月島 当然のことをかっこつけて言うな。

日高 ふっ。……今日初めて分かった。だからお前はこんなところでバーを開いているんだな。

月島 何のことだ?

日高 はっはっはっ。気にするな。ひとりごとだ。……またな、マスター。

月島 また……。な。

日高、立ち去る。それに続いて人間達も去っていく。

バーに残ったのは木下と月島の2人である。

月島 もう夜明けだ……。今日も夕飯を食べる暇がなくなっちゃったな。

木下 そうですね。まあどうせ今日もカレーでしたけどね。

月島 明日はさすがに違うものがいいな。シチューでどうだ?

木下 いやです。

間。

木下 そういえば私ピアノ弾けるんですよ。小学校の頃に習ってたんです。

月島 弾いてみるか? 10年前を最後に流れなくなったBGMを。流してみるか?

木下ピアノを弾き始める。ねこふんじやった。

木下 マスター。私思い出したんです。何であの日私がこのバーに来たのか。

月島 え?

木下 だから自分がピアノをやってたってことも。

月島 このタイミングでか?

木下 このタイミングだからだと思います。たぶん記憶喪失者としての私の役割はさつき終わったんですよ。梨沙さんの生まれ変わりとしての役割は……。

月島 真琴の考え方はいつもファンタジーだ。

木下、ピアノを止める。

木下 それで記憶のある私としての……木下真琴としての役割がこれから始まるんです……。できれば思い出したくないことかとも思い出しちゃいましたけど……。それでも前を向いて生きていこうと思います。

月島 おいおい。どうしたんだ急に？

木下 ……マスター。あなたは私の……。

モーツアルトの曲が流れだす。静止する2人。暗転。

幕。

※この作品は2009年に執筆されたものです。2010年4月に法改正が行われ、公訴時効は廃止されました。

カクテル紹介（登場順）

ソルティドッグ

イギリス海員達のスラングで「甲板員」のこと。潮風や波浪を浴びながら甲板上で仕事をすることから「塩辛い野郎」と呼ばれるようになった。このイギリス生まれのカクテルの原型はベースはジン、これにグレープフルーツジュースを加え、塩をひとつまみ加えてシェークし、カクテルグラスに注ぐというものだった。現在のスタイルになったのはアメリカに渡ってからのこと。カジュアルなスタイルはあつという間に世界に広がり、いまでも人気を博している。

材料 ウォツカ、グレープフルーツジュース

技法 ビルド

方法 塩でスノー・スタイルにしたタンブラーに氷を入れ、材料を注ぎ、軽くステアする。

ダイキリ

19世紀末、キューバのダイキリ鉱山の技師たちが、ラムをライム・ジュースで薄めたドリンクを飲んでしたことから命名されたもの。さわやかさとほどよい甘さが人気のラム・ベースの代表的カクテル。

材料 ホワイトラム、ライムジュース、シュガーシロップ

技法 シェーク

方法 シェークして、カクテル・グラスに注ぐ。

ギブソン

マティーニのオリーブに対して、こちらは同じレシピながらパール・オニオンを沈める。1890年代、アメリカの人気イラストレーター、チャールズ・ダナ・ギブソンに由来する。

材料 ドライジン、ドライベルモット

技法 ステア

方法 ステアして、カクテル・グラスに注ぎ、パール・オニオンをカクテル・ピックに刺して沈める。

ゴットフアーザー

映画「ゴットフアーザー」にちなんでつくられたカクテル。アマレットを加えたシンプルなカクテルとして世界的に人気。このカクテルがきっかけ

でブランデー・ベースに代えてなどのカクテルのバリエーションが増えてきたとされている。

材料 スコッチウイスキー、デイサローノアマレット

技法 ステア

方法 氷を入れたオールド・ファッシュヨンド・グラスに注ぐ。軽くステアする。

スコープオン

スコープオンとはさそり座のこと。誕生石のトパーズの黄金色をイメージして作られたもの。ハワイ生まれのトロピカル・カクテルのひとつ。

材料 ホワイトラム、ブランデー、オレンジジュース、レモンジュース、ライムジュース

技法 シェーク

方法 シェークして、クラッシュド・アイスを含めたゴブレットに注ぐ。オレンジ・スライスを飾る。

グラスホッパー

グラスホッパーとは「バッタ」のこと。ペパーミントのさわやかさとカオの香ばしさが、調和された香りのよいカクテル。生クリームのまるやささが、ほどよくミックスされている。生クリームを使うため、よくシェークすることがポイント。

材料 ペパーミントグリーン、クレームドカカオホワイト、生クリーム

技法 シェーク

方法 よくシェークして、カクテル・グラスに注ぐ。

ゾンビ

ゾンビとは魔術師に操られる死人のこと。西インド地方の迷信を名前にしたカクテル。

材料 ホワイトラム、ゴールドラム、レモンジュース、ライムジュース、オレンジジュース、クレームドノワヨ、グランマルニエ、グレナデンシロップ

技法 ビルド

方法 クラッシュド・アイスを入れた8オンスのタンブラーに注ぎ、よくステアする。

サムライ

日本酒本来のコクとキレはそのまま、柑きつ系のさわやかなのど越しが加わる。食後のカクテルとして最適。

材料 日本酒、ライムジュース、レモンジュース

技法 シェーク

方法 シェークして、カクテル・グラスに注ぐ。

XYZ

アルファベットの終わり「XYZ」、これ以上のものはないという意味が込められたカクテル。しかし、名前の由来とは違い、これでおしまいという最後の一杯に飲まれることが多い。

材料 ライトラム、コアントロー、レモンジュース

技法 シェーク

方法 シェークして、カクテル・グラスに注ぐ。

ロングアイランドビーチ

ロング・アイランド・アイスティーのコーラを克蘭ベリー・ジュースに代えたカクテル。ロング・アイランド・アイスティー同様とても手間のかかるカクテルだが、こちらはあまり知られていない。

材料 ドライジン、ウオツカ、ホワイトラム、テキーラ、ホワイトキュラソー、レモンジュース、シュガーシロップ、克蘭ベリージュース

技法 ビルド

方法 クラッシュド・アイスを詰めたコリンズ・グラスに注ぎ、軽くステアする。レモン・スライスとレッド・チェリーをカクテル・ピンに刺して飾る。

エメラルドミスト

ドランブイとブルー・キュラソーでつくった、緑の美しいカクテル。ミストとは、オールド・ファッシュヨンド・グラスやタンブラーにクラッシュドアイスを詰めると、グラスの表面が冷えてミストで覆われたようになることから命名された。アルコール度数が高いのに甘口な、危険なカクテルだ。

材料 ドランブイ、ブルーキュラソー

技法 ステア

方法 ステアして、オールド・ファッシュヨンド・グラスに注ぐ。レモン・ピールを絞りかけグラスの中に落とし、ストローを添える。

アレキサnder

イギリスの皇太子妃アレキサンドラの名を持つカクテル、ブランデーの豊潤な香りとカカオのほろ苦さがマッチ。女性が好むカクテルとして、いつも上位にランクされている。

材料 ブランデー、クリームドカカオブラウン、生クリーム

技法 シェーク

方法 シェークして、カクテル・グラスに注ぐ。

ルシアン

ジンとウォッカをカカオの甘さでやさしく包み込んだ、口当たりのよき抜群のカクテル。飲み口のやさしさにだまされて、つい何杯も飲んでしまう。とたちまちダウンする。女性にとって要注意のカクテルとして有名。

材料 ドライジン、ウォッカ、クレームドカカオブラウン

技法 シェーク

方法 シェークして、カクテル・グラスに注ぐ。

オーガズム

男性が女性に飲ませてあげたいカクテル。名前のとおり意味ありなネーミング。甘く、まるやかな味わいにバランスよく仕上がっている。

材料 アイリッシュクリーム、カルーア、ディサローノアマレット、生クリーム、ミルク

技法 シェーク

方法 シェークして、大型カクテル・グラスに注ぐ。

トム&ジェリー

アメリカでクリスマスドリンクとして有名なホットカクテル。のんきな猫のトムと、ねずみのジェリーが登場するアニメを思い出すが、それとは関係なく、16世紀末に活躍したバーテンダー、ジェリー・トーマス氏が考案し、その名を冠したというカクテル。

材料 ダークラム、ブランデー、卵、砂糖、熱湯

技法 ステア

方法 卵は黄身と白身を別々に泡立てる。黄身に砂糖を加えツヤが出るまでホイップして白身と和える。ラムとブランデーを加えてステアして、ホルダーつきのタンブラーに注ぐ。熱湯で満たしてステアする。

カシスオレンジ

カシスとオレンジのフルーティーさが満喫できる、男女問わず大人気のカクテル。家庭でも手軽に作ることができるので、ホームパーティーのときなど、簡単でかつ喜ばれるおもてなしのドリンクとしておすすめ。アルコール度数も控えめなので、お酒に弱い人にもうれしいカクテル。

材料 クレームドカシス、オレンジジュース
技法 ビルド

方法 氷を入れたタンブラーに注ぎ、軽くステアする。

トウルーハーブ

木下真琴考案のノンアルコールカクテル。見た目も味もなかなか良いらしいが、使っている材料が、思わずちょっと待てと言いたくものだらけらしい。

材料 ????

技法 ????

方法 ????

用語解説（五十音順）

オールド・ファッションド・グラス (Old Fashioned Glass)

カクテルに使うグラス。底がすぼまっておらず、口と同じ大きさになっている寸胴な形をしている。一杯の容量は約 180ml〜300ml。重量感のあるグラスで飲むと、カクテルの味わいが一段と引き立つといわれる。日本ではロック・グラスと呼ばれる方が一般的だ。

オンズ (Oz)

材料の分量を表す単位。ロング・ドリンクスのレシピを示す時によく使われ、日本では「オンスを 30ml」として計算する。「」オンスは、シングル「杯分の量となる。なお、レシピに示す際は oz と表記される。

カクテル・グラス (Cocktail Glass)

ショート・ドリンク用の脚 (ステム) 付きグラス。逆三角形のタイプが多いが、ソーサー型のシャンパン・グラスに似たものもある。容量はさまざまで、「」は 60ml から上は 120ml〜150ml の大型サイズまであるが、標準はショート・ドリンク「杯分 60ml が、程よく満たされる 90ml サイズ。使い分けに規則性はないが、強い酒を使ったカクテルの場合は鋭い形を使い、卵白やクリーム類を使った優しい味わいのカクテルには、なだらかで曲線的なグラスを採用するなど、カクテルのイメージを表現する手段として選ぶと良い。

カクテル・ピン (Cocktail Pin)

カクテル・ピックとも呼ばれる。デコレーションにオリーブやチェリーなどを刺して使う。プラスチック製や金属製があり、デザインもさまざま。ただし、口の中に入れることも考慮し、先が鋭利なものは避けたほうが無難だ。

クラッシュド・アイス(Crashed Ice)

ロング・ドリンクス系のカクテルによく使われる、ロック・アイスをアイス・クラッシャーを使って小さな粒状に砕いた氷。

ゴブレット(Goblet)

氷をたっぷり使うトロピカル・カクテルに使用するグラス。ビールやノン・アルコール・カクテル、ソフト・ドリンクスなどを注いでもいい。容量は300mlが基準だが、より大型のものもある。

コリンズ・グラス(Collins Glass)

背が高い円柱形のグラス。別名トールグラス、チムニー・グラスとも呼ばれる。炭酸を使ったカクテルを出す際によく使われる。

シェーク(Shake)

カクテルをつくる技術の一つ。シェーカーに氷と材料を入れ強く振ることによって、混ぜりにくい材料を急速に混ぜ合わせ、冷やす。アルコール度の強い酒のカドを取る役目も果たす。

ステア(Stir)

カクテル製作の技術の一つ。比較的混ぜやすい材料のスピリッツをかき混ぜたり、材料と氷を入れ、バー・スプーンで手早くかき混ぜる。ステアとは攪拌する、かき混ぜるの意味。

スノー・スタイル(Snow Style)

カクテルのデコレーションの技法の一つ。グラスの縁に塩や砂糖をつける飾り方。レモンでグラスの縁を濡らしてから塩や砂糖をつける。満遍なくきれいにつけることができる。なお、スノー・スタイルは和製英語で正式には Rimmed with salt(sugar) ヲシベ。

タムブラー(Tumbler)

ロング・カクテルによく用いられるグラス。通称トランプ。6オンス(約180ml)のものと8オンス(約240ml)のものがある。カクテルによく使われるのは8オンスのタイプ。

ドライ(Dry)

酒やカクテルの味を、甘辛い観点から表現する方法の一つで辛口の場合に使う表現。逆に甘口の場合は、スイーティという表現になる。

ビルド(Build)

カクテルの調整技法の一つ。シェーカーやミキシング・グラスなどを用いず、直接グラスに氷や酒の材料を注ぎ、カクテルをつくる。